

製品名: UHRF1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19615**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	89kDa

抗原情報

遺伝子名	UHRF1 UHRF1; ICBP90; NP95; RNF106; E3 ubiquitin-protein ligase UHRF1; Inverted CCAAT box-binding protein of 90 kDa; Nuclear protein 95; Nuclear zinc finger protein Np95; HuNp95;
別名	hNp95; RING finger protein 106;Transcription factor ICBP90; Ubiquitin-like PHD and RING finger domain-containing protein 1; hUHRF1; Ubiquitin-like-containing PHD and RING finger domains protein 1
遺伝子 ID	29128.0
SwissProt ID	Q96T88
免疫原	ヒト UHRF1 の内部領域から得られた合成ペプチド。

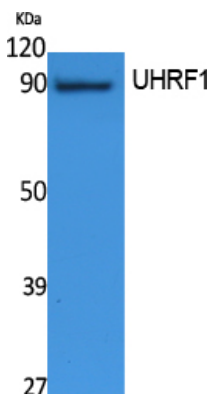
背景

この遺伝子は、RINGフィンガー型 E3 ユビキチンリガーゼのサブファミリーに属するタンパク質をコードする。このタンパク質は特定の DNA 配列に結合し、ヒストン脱アセチル化酵素をリクルートすることで遺伝子発現を制御する。発現は細胞周期の G1 期後期にピークに達し、G2 期および M 期を通じて持続する。トポイソメラーゼ II α および網膜芽細胞腫遺伝子の発現を制御することで G1/S 期移行に主要な役割を果たし、p53 依存性 DNA 損傷チェックポイントにおいても機能する。エピジェネティック情報の統合におけるハブタンパク質と考えられている。この遺伝子は様々な癌で発現が亢進しており、治療標的となる可能性が示唆されている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見出されている。関連する疑似遺伝子が 12 番染色体上に存在する。[RefSeq 提供、2014 年 2 月]、発生段階:胎児胸腺、肝臓、腎臓で発現する。、ドメイン:RING フィンガーはユビキチンリガーゼ活性に必要である。、ドメイン:YDG ドメインはヒストン H3 との相互作用を媒介する。、機能:推定上の E3 ユビキチンタンパク質リガーゼ。メチル化依存性転写制御に関与する可能性がある。TOP2A プロモーターの逆位 5'-CCAAT-3'ボックス 2 に結合し、TOP2A 発現を活性化する。G1/S 遷移に重要。DNA 修復および染色体安定性に関与している可能性がある。、誘導:増殖細胞でアップレギュレーションされ、静止細胞でダウンレギュレーションされる。アドリアマイシン誘発性 DNA 損傷により、TP53/p53 および CDKN1A 依存的にダウンレギュレーションされる。E2F1 転写因子によって誘導されます。、経路:タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。、PTM: セリン残基がリン酸化されます。リン酸化は DNA 結合活性を高める可能性があります。、PTM: ユビキチン化され、プロテアソームによる分解を引き起こします。ポリユビキチン化は DNA 損傷によって刺激される可能性があります。、類似性: PHD 型ジンクフィンガーを 1 つ含みます。、類似性: ユビキチン様ドメインを 1 つ含みます。、類似性: YDG ドメインを 1 つ含みます。、類似性: RING 型ジンクフィンガーを 2 つ含みます。、サブユニット: ヒストン H3、H1、および H2B と相互作用します (類似性による)。HDAC1 と相互作用しますが、HDAC2 とは相互作用しません。UHRF1BP1 と相互作用します。メチル化 CpG 含有オリゴヌクレオチドに結合する。、組織特異性: 胸腺、骨髄、精巣、肺、心臓で発現する。乳がんにおいて過剰発現する。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



UHRF1 ポリクローナル抗体を使用した、Jurkat 細胞抽出物のウェスタン ブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。